

平成26年度研究成果報告書《平成26年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	26	都道府県・指定都市名	京都府	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	社会科
研究課題	<p>新学習指導要領の実施状況やこれまでの本校の重点研究（国語科・社会科）から、言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力等を育成すること、また、そのための教材開発を進めることが課題となっていると考えた。そこで、次のような研究課題を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえた地域教材の開発と実践</li> <li>・言語活動（討論的活動）を充実し、協働的な学びを重視した問題解決的な学習の指導方法の研究</li> <li>・研究実践の効果測定等に係る評価の研究と成果の普及</li> </ul>				
ふりがな 学校名（児童数）	きょうとふかめおかしりつちよかわしょうがっこう 京都府 亀岡 市立 千代川 小学校（514人）				
所在地（電話番号）	〒621-0046 京都府亀岡市千代川町北ノ庄国主ヶ森 21 (0771-22-5158)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.el-chiyokawa.city.kameoka.kyoto.jp/">http://www.el-chiyokawa.city.kameoka.kyoto.jp/</a>				
研究のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえた地域教材の開発</li> <li>・協働的な学びを重視した問題解決的な学習の指導方法の研究（授業づくり）</li> <li>・ふるさとのよさに気付き、これからのよりよい社会について考え、他者とつながりながら主体的に生きようとする児童の育成</li> <li>・研究実践の効果測定と成果の普及</li> </ul>				
研究成果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえ、児童が身近に問題を捉え、意欲的に学ぶことのできる地域教材の開発が進んだ。</li> <li>・討論的な活動の多様な形態や児童のスキル、ICTの効果的な活用等、協働的な学びに係る指導方法の研究（授業づくり）が進んだ。</li> <li>・学習アンケート等から「社会科が好き」という児童が増え、ふるさとのよさに気付き、誇りを持ち、社会と関わろうとする意欲が少しずつ育ってきた。</li> <li>・研究発表会や実践事例集の作成を通して成果を普及することができた。</li> </ul>				

## 1 研究主題等

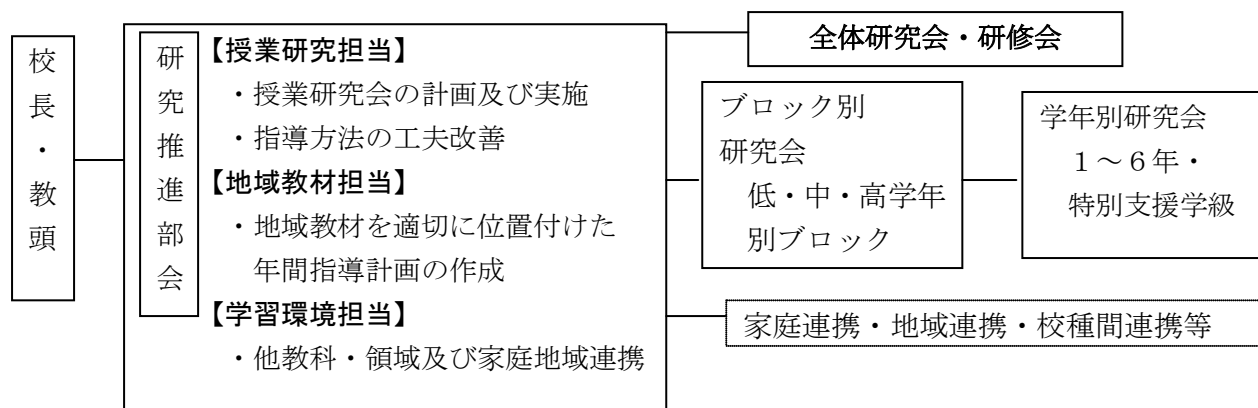
### (1) 研究主題

ともに学び、郷土を愛し、未来を創る児童の育成  
～協働的な学びと地域教材を通した社会科の授業づくり～

### (2) 研究主題設定の理由

- ・昨年度まで国語科・社会科において言語活動を充実し、「質の高い学力」を育むことを目指して研究実践を進め、話し合い活動における児童の変容等、一定の成果を得ることができた。また、地域教材の開発に着手し、その効果も実感できた。
- ・校区は歴史や産業等に係る素材が豊富で、地域人材にも恵まれている。
- ・これまでの成果と地域のよさを生かし、学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえ、児童が興味や関心を持ち、意欲的に学ぶことのできる地域教材を開発したいと考え、また、討論的な活動など協働的な学びを通して、思考力・判断力・表現力等を育成し、ふるさとを愛する心を育てたいと考え、本研究主題を設定した。

### (3) 研究体制



### (4) 1年間の主な取組

平成26年度	<p>1 学期：研究方針・計画・体制づくり 理論研修 児童学習アンケート 研究授業</p> <p>夏季休業：地域の方の講話 フィールドワーク 地域教材の開発 理論研修</p> <p>2 学期：研究授業 地域教材の開発と実践 児童学習アンケート 研究成果の検証</p> <p>3 学期：研究発表会 研究協議会 研究成果の普及 児童学習アンケート 次年度に向けた総括</p>	<p>研究方法・内容等共通理解</p> <p>↓</p> <p>地域教材の開発・指導方法の研究・成果検証（アンケート・学力分析）等の実践</p> <p>↓</p> <p>各学年の目標や内容の達成</p>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ア 地域教材の開発と実践

- ・ 学習指導要領の各学年の目標や内容を踏まえ、地域連携によるフィールドワークや聞き取りを軸とした、児童が興味や関心を持ち、郷土愛を感じ、意欲的に学ぶことのできる地域教材の開発
- ・ 各学年の目標や内容を踏まえて開発した地域教材の単元構想

#### イ 協働的な学びを重視した問題解決的な学習の指導方法の研究

- ・ 言語活動の充実を進め、児童が自分なりの考えをもち、「伝え合いたい」と思える授業の創造
- ・ 協働的な学びを重視した問題解決的な授業スタイルの構築
- ・ ICTの効果的な活用など討論的な活動の質を深める学習方法や学習形態の工夫
- ・ 資料活用の方法等、学習スキルの向上

#### ウ 研究実践の評価と検証

- ・ 児童の単元終了時のまとめや感想を見取り、児童の変容を検証
- ・ 児童学習アンケートと教師アンケートの実施による、児童と教師の変容の検証

#### エ 成果と普及

- ・ 研究の成果を明らかにするための研究発表会の開催
- ・ 研究の成果をまとめた「実践事例集」の作成

## (2) 具体的な研究活動

### ア 地域教材の開発と実践

- ・地域教材は児童が身近にとらえることができるよさがある。そこで、児童が興味・関心を深められるよう、地域の方々との打ち合わせを十分に行い、題材との出合わせ方(導入)を工夫し、地域教材としての効果が発揮できるように実践に当たる。
- ・指導者が「教材研究は楽しいしおもしろい」と感じられるように地域教材の開発を進め、千代川ならではのカリキュラムを作成する。フィールドワークを教師自身が行い、地域を教材化にすることで目標によりよく迫れるように単元を構想する。

#### 実践例 第4学年 郷土をひらく 「保津川の水害と日吉ダム」

- ・校区を流れる保津川は、昔から何度も洪水に悩まされてきた。この保津川の治水のために上流に日吉ダムができた。合わせて、校区に日吉台という新しい地区ができた。日吉ダム建設に伴って移転されてきた日吉町の方々の住まいの地域である。
- ・移転されてきた方から話を聞き、児童は、苦労や苦心など、ふるさとを離れるまでの多くの葛藤を知り、その人々のおかげで今の安全や地域の発展があることに気付いた。郷土を大切に思う気持ちに触れ、感謝し「郷土をひらく」ことの意味を学んだ。



### イ 協働的な学びを重視した問題解決的な学習指導方法の研究

- ・学習指導要領の目標や内容を読み込んで単元構想表を作成する。単元の最後に児童にかませたいことを明確にして学習問題を考え、児童の思考の流れが導入から追究活動に順に進んでいけるように単元構成を考える。
- ・思考の過程や考えを明らかにするために、必要な場面に「書く」活動を取り入れる。
- ・「からみとゆらぎ」をキーワードとして、自分の考えをもち、友だちの意見を受け止めて考えを深めていける討論的活動を授業の中に設定する。そのために、自分の考えを伝えたいと思える仕掛けや場の設定を行う。
- ・今年度より改善されたICTについての環境を、調べ学習、話し合い活動、学習のまとめとしての表現活動等に効果的に活用する。

#### 実践例 第5学年 「わたしたちの生活と森林」

- ・近隣の森林資源の働きや林業について調べたり、見学したり、また木工製作を体験したりして、林業が抱えている問題について、自分の考えをもって学習を進めた。
- ・まとめに至る学習では、「割り箸は日本の林業を救えるか」と割り箸を切り口にして、林業の振興と日本の森林を守るための方策について話し合った。自分の立場を明確にしての話し合いや、これからの林業を考える具体的資料(最新技術を駆使した木材加工の映像、木糸(もくいと)で作ったバッグなど)の提示を通して、意見がからんだりゆらぎが生まれたりした。
- ・地域の森林から見方を広げ、児童は社会の一員として「国産の木をどう使えばいいかを考えることが大切。」と、日本の林業と森林の未来に目を向けて考えるようになった。



### 3 研究の成果と課題

#### (1) 成果

##### ア 地域教材の開発と実践

- 千代川町の持つ歴史や産業に係る素材、人材の豊かさを背景に、単元に合わせて、多くの教材開発を進めることができた。そして地域教材を取り入れた単元を単元構想表に図式化することで、目標を達成するための道筋を明確にして実践することができた。
- 地域を学習材とすることで、児童は問題を身近にとらえ、意欲的に学び、親しみや愛着を持つことができた。

##### イ 協働的な学びを重視した問題解決的な学習指導方法の研究

- 児童理解を大切にし、児童の思考の流れをいかして討論的活動の場面を取り入れたことで、自分の考えを持ち、活発に意見を出し合う授業を作り出すことができた。児童はこのような問題解決的な学習を楽しんでいると感じてきていて、徐々に、思考・判断・表現の力を付けてきている。
- ICTの活用に取り組み、授業や討論的な活動を支えるための多様な指導形態を探り、児童の思考が深まる授業実践が行えた。

##### ウ 研究実践の評価と検証

- 児童アンケートの結果、社会科学習への関心・意欲に伸びが見られた。
- 討論的活動を通して学びを深める姿勢が見えてきた。

	5月				12月			
	①	②	③	④	①	②	③	④
自分の考えを話すことが好きだ	24.1%	32.0%	24.1%	19.8%	37.1%	26.3%	24.6%	12.0%
問題やテーマを決めて討論をする授業は楽しい	40.2%	30.1%	19.1%	10.5%	48.3%	27.7%	15.2%	8.8%
社会科の学習はすきだ	38.8%	31.2%	17.6%	12.4%	41.5%	34.1%	16.0%	8.3%

①あてはまる ②どちらかと言えばあてはまる ③どちらかと言えばあてはまらない ④あてはまらない

- 児童の問題意識に寄り添った授業づくりを意識するようになった。

##### エ 成果と普及

- 研究発表会を開催し、研究の成果を明らかにするとともに広く伝えることができた。
- 単元構想表やそれに基づく授業づくりの成果をまとめた「実践事例集」の作成を行った。

#### (2) 課題

- 学習指導要領の各学年の目標と内容を踏まえて、地域教材を位置付けた年間指導計画の作成を進める。そして、効果的な地域人材等の活用を行う。
- 自分の問題として地域をとらえ、愛着をもって学習に向き合えるように学習問題を設定する。そのために単元構成を練り上げ、問の質の向上をめざす。
- 思考力・判断力・表現力を高めるために、さらに協働的な学びを重視した問題解決的な学習の指導方法を追究する。
- 見通しをもって問題解決に向かうための学習スキルの向上を図る。

#### (3) 指定期間終了後の取組

- 今年度の研究主題を引き継ぎ、学習指導要領の各学年の目標と内容を踏まえて、開発した地域教材を位置付けた年間指導計画を作成する。そして、「地域教材の開発と授業づくり」と「協働的な学びをもとにして、思考力・判断力・表現力を高める」研究を進める。
- 社会的な事象の見方を養うとともに、そのための指導方法の研究を進める。